

全小社研

・発行所
・全国小学校社会科研究協議会
・東京都台東区池之端 2-1-22
・発行人 吉 藤 玲 子
・編集人 澤 田 純 二

学習指導要領全面实施二年目

二つの全国大会への期待

全国小学校社会科研究協議会会長
東京都台東区立忍岡小学校長

吉 藤 玲 子



新しい学習指導要領の全面实施二年目となりました。各都道府県では、指導計画における評価や副読本の見直し作業など、社会科実践の充実が図られていることと思います。

新型コロナウイルスもなかなか終息が見えませんが、国を超えて人類が共に対応を考えていかなければならない状況です。社会の課題を考える教科として、社会科は、今こそ、頑張らなくてはならないと、研究の歩みを止めることなく、

昨年度も二つの全国大会を実施しました。そこには、全国から研究熱心な人々が集まり、前向きな協議が成されました。

本年度、東京都が緊急事態宣言の最中行われた第百十回の全小社研理事会では、東京会場と全国をオンラインでつなぎ、北海道から沖縄県まで今までの理事会開催の中で最大の自治体が参加しました。実際に会うことができないことは残念ですが、昨年度の神奈川大会理事会から始まったオンライン会議は、新しい形で人々をつないでいます。先行きが見えにくい世の中ですが、情報交換も含め、社会科を学ぶ我々が力を合わせて、この困難を乗り越えていきたいと思っています。

さて、今年度は、十月二十八日

(金)に第五十九回全国小学校社会科研究大会大阪大会が「確かな知識をもとに、よりよい社会を創造できる子どもを育てる社会科学習」を大会主題に開催されます。大阪大会では、まず「確かな知識」を習得することに重きを置いています。今回の学習指導要領では、「内容の取り扱い」に「社会への関わり方を選択・判断する」、「多角的に考える」ことが示されています。私たちの生活は、毎日が判断の連続ですが、その基本になるのは、獲得した知識です。「確かな知識」をどう生かし、今の社会、これからの社会に生かす学習を展開していくのか大きな期待を持って大会に臨みたいと思います。また来年一月二十八日(金)には、「社会への関わり方」を考え続ける社会科学習の創造」を研究主題に佐賀大会が開催されます。どちらの大会も昨年度の神奈川大会の形態を生かし、授業は録画による放映、密を避けての会場設定・研究分科会等が予定されています。どちらの大会においても活発な協議が行われると思われま。二つの大会の成果が各地区の社会科教育の益々の発展につながることを切に願っております。

共通理解と実践の充実を目指して

全国小学校社会科研究協議会副会長
東京都板橋立上板橋第四小学校長

和 田 幹 夫



新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況が未だに続いています。その中でも、私たち東京都小学校社会科研究会では、研究を止めないという強い決意の下、方法や内容を工夫しながら研究を進めています。

来る令和五年度の東京大会に向けて、平成二十九年告示小学校学習指導要領社会科の趣旨を具現化した授業を展開できるよう、昨年度は理論構築と東京都内各地区との連携充実を力を入れてきました。その中で、研究主題について改めて見直しを図るとともに、主題に迫るための手だてについて、より具体的、かつ、東京らしさを打ち出せるようにと、議論と実践を積み重ねてきました。それを基に現在、「都小社研の授業づくり

ガイドブック」の作成に取り組み、今年度早い時期での完成を予定しています。同ガイドブックを活用し、社会科の授業づくりや都小社研の研究について、都小社研関係者全員の共通理解を深め、より一層の研究の充実を図っていきます。

また、都内各地区との連携もさらに推進していきます。研究内容の共有に加え、今年度は、東京大会会場四校ごとに都内各地区割りを行いました。そして、会場校と各地区が共に研究に取り組む体制を強化していきます。

さらに、今年度の研究の柱である、確かな理論に基づく授業実践の充実を図っていきます。都小社研、会場校、各地区が一体となつて、新しい社会科の授業を目指していきます。

研究の様子については、随時都小社研ホームページで発信していきます。全国の皆様とも互いの研究成果を共有しながら、共に社会科授業の充実に向けていきたいと思っています。

第五十九回全国小学校社会科研究協議会大阪大会

大会主題 『確かな知識をもとに、

よりよい社会を創造できる子どもを

育てる社会科学習』

大阪大会実行委員長
大阪市立常盤小学校校長 村上 昌 志



一 はじめに

依然としてコロナ禍が続き、様々に教育活動の制限がある中、多くの先生方が社会科教育の研究に取り組み続けられていることに敬意を表します。先生方のご厚情に支えていただき、今秋大阪大会を開催させていただきます。

第四六回大阪大会(平成二〇年)以後、問題解決的な学習過程をより一層充実させるため、指導や評価のあり方等について実践的な研究を継続してきました。加えて、子どもの主体的な学びを追究するなかで、改めて獲得する知識について着目しました。社会科学習において獲得

させたい知識を明らかにして、授業を構想し実践を重ねてきています。

当初二日間開催の予定でしたが、感染拡大防止についての配慮が不可欠な状況が継続しているため、規模を縮小して一日開催としました。午前に全体会、午後に公開授業は行わず分科会、各都道府県の課題別提案は誌上提案といたします。皆様からご批評ご指導を賜り、実り多い大会にと願っております。よろしくお願い申し上げます。

二 大会の概要

(1) 大会主題

確かな知識をもとによりよい社会を創造できる子どもを育てる社会科学習

(2) 研究の内容

近未来は予測不可能な時代であり、新型コロナの世界的

な感染拡大によって社会変化は加速したとも言われています。このような時代には、主体性と創造性を発揮して、新しい社会を創り出すことが求められます。その基盤の一つが「知識」であると考えました。社会科学習を通して習得・獲得すべき知識を「確かな知識」とし、先述の研究主題と、次のようなめざす子ども像を設定し、教育課程、指導法、評価の観点から研究を深めてまいりました。

○問題解決のために必要な情報を取捨選択し、社会生活に関する理解を通して「確かな知識」を身につけた子ども

○対話を通して、多角的に考え、「確かな知識」をもとに社会との関わり方を考えられる子ども

○社会的事象について主体的に調べ、わかつくとして課題を意欲的に追究するとともに、「よりよい社会」を創造しようとする子ども

教育課程

「社会生活についての総合的な理解を図る」ための知識は、様々なレベルがあります。調べてわかるような社会的事象の知識、社会的事象の特色、相互の

関連、意味など概念等にかかわる知識、選択・判断も含みつつ生み出される価値・判断の知識などです。これらを「確かな知識」ととらえています。

これまで私たちは北俊夫氏の「知識の構造図」を参考に用具的知識、具体的知識、概念的知識の3つの知識で構造化してきました。そこに社会的事象の意味、因果関係などの理解を経て醸成される価値的知識を加えて構造化しました。価値的知識はよりよい社会を創造するために基礎となる知識と考えています。

指導法

子どもが「確かな知識」を獲得できるようにするためには、問題解決的な意識の流れにそって、学習を進めることが必要です。そこで、小単元(四五分)を積み重ねた学習のまと

まりを「中単元」、一時間の学習を「小単元」とし、それぞれに学習過程を設定し、ねらいをもって問題解決的な学習を行うことができます。

評価

各観点において「いつ・何を・どのように」評価するのかを明確にし、評価結果を即時支援や指導改善を行います。「確かな知識」の獲得を目指す各観点における評価について明らかにしました。

例えば、思考・判断・表現の観点から評価を行う学習場面は、主に「問いを見出す」「意味追究する」「判断する」活動です。中でも「意味追究する」活動では、調べた内容をもとに問いを考えられているかについて評価します。調べた内容を根拠に発言しているか、概念的知識に結びつくような発言や記述か等を見取りで評価していきます。

三 開催日・会場

令和三年一〇月二九日(金)
全体会 大阪市教育センター
分科会 大阪市立野田小学校
大阪市立古市小学校
*詳細や申し込みは、全小社研大阪大会ホームページをご覧ください。
<https://zenshosya2021osaka.com/>

「小単元」4段階の学習過程		「中単元」3段階の学習過程	
段階	ねらい	段階	ねらい
つかむ	本時の「問い」を明確にとらえることができるようにする。	出合う	中単元を方向づけ、小単元の「問い」をつくる。
調べる	社会的事象を詳しく調べ、表現する。	分かる	各小単元の「問い」を解決していく。
考える	社会的事象の意味を考えたり、予想を検証したりする。	生かす	解決した「問い」を、社会参画につなげる。
ひろめる	学習してきたことを一般化させ、深化・発展を図る。		



「出会う喜び」「創りだす喜び」等々を味わえるよう、「学びの

学校教育目標『創造性・自主性を身につけ、人間性豊かな子どもを育成する』の達成に向け、子どもたちが、「わかる喜び」「できるようになる喜び」

◆学校紹介
本校は、明治三十六年に創立され、再来年度に百二十周年を迎える歴史と伝統ある学校です。

◆研究の概要
『自ら進んで取り組み、共に学び合う子どもを育てる』を研究主題に、社会科・生活科の研究を始めて三年目になります。

実感”に満ちた教育活動の創造を重点に、教職員が一丸となって、日々、教育実践に励んでいます。

◆学校紹介
本校は、大阪市旭区に位置し、令和四年度には創立一五〇周年・開校一〇〇周年を迎えます。

主体的に活動するたくましい子どもを育てる」校訓は「自ら考える子」「つよい子」「なかよくする子」を掲げ、子どもと教職員が共に主体的に取り組む授業を大切にしています。

◆研究の概要
社会科の研究については、大阪市小学校教育研究会社会部の研究主題「確かな知識をもとに、よりよい社会を創造できる子どもを育てる社会科学習」に基づき、本校研究テーマを「子どもとおとなが協働し、主体的に学び合う授業づくり」と設定しました。



本校教員は、四十五分で授業を完結させることの難しさを感じながらも、子どもが主体的に問題解決的な学習に取り組む、学習成果を吟味したり、自分自身の変容を自覚したりする姿を大切にしています。

「授業の振り返り」を設け、問いをもつ場面から授業の振り返りを発表する場面までを四十五分の授業時間で修める授業展開を工夫してきました。